

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録VIII)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (8. Ergänzung)
Author	宮澤, 浩一 (Miyazawa, Koichi) 井田, 良 (Ida, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1986
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.59, No.8 (1986. 8) ,p.109(32)- 140(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19860828-0109

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資 料

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅷ）

宮 澤 浩 一
井 田 良

ま え が き

① 法学研究57巻12号に発表した追録Ⅶ（同時に、宮澤浩一編・西ドイツ刑法学・学者編、成文堂、1978年の追録Ⅳである）に続いて、ここに「追録Ⅷ」を発表する。1984年末までに公刊された著書・編著・論文などを整理し、著者ごとに、既発表の部分の補訂を行うとともに、編者が見落していたものも加え、一層の充実を期した。今回は、新たに追加する研究者はいないが、次年度に一括して収録したいと考えている。編者のうち、宮澤は、1985年5月16日から18日にかけて、フランクフルト大学で開催されたドイツ語圏刑法学会に出席したが、若い世代のペーター・アレクシス・アルブレヒト、ギュンター・ヤコブス、クラウス・フォルクの議論を面白く聞いた。一般予防に関するエルンスト・アマデウス・ヴォルフの議論は、30年前のハイデルベルヒ大学助手のときと同じく、抽象的思弁のモノローグであり、アルトゥール・カウフマンが「ここは、法哲学会だったかな」とささやきかけたり、周囲でも、お互いに肩をひそめ、肩をすくめるといった光景であった。これらの報告は、全刑法学雑誌97巻第4分冊（1985年）に公刊されているので、次回に廻す。

② 内外の研究者から、「追録」を加え、再編成して、新装第2版を出して欲しいとか、事項索引を考えて欲しいとの注文がある。前者に関しては、出版社の都合もあり、あと2、3年してからのこととしたい。後者については、最近3年間、集中的に力を注いだ仕事があったため、余力がなかった。2つの国際的な会議（被害者学シンポジウムとアジア・太平洋地域少年非行会議）を主催したことで「全刑法学雑誌」の資料化がそれである。殊に、後者は、1200頁を超える資料集となったため、原稿化はもとより、校正のためかなりのエネルギーを使いつくした。もっとも、私共の手元のカードやルーズリー

フ、ファイルなどによる事項別分類の準備は、急速に進んではいない。

③ 前回までは、2年分をまとめて追録を出したが、今回から、1年ごとに整理しようと思う。情報の伝達は迅速であるにしくはない。それとともに、2年分だと、一度に登載するには長すぎるので、本誌の編集の都合からみて、適当な分量にすることを考えた。それとともに、できる限り、関連する情報を分析し、年度の特徴など、気づいた事項を解説することとした。初めての試みであるが、利用者に何らかの助けになればと願っている。

a. 総説 大学研究者は、それぞれの著書・論文を書くスケジュールをたてているが、祝贺・追悼論文集に寄稿を求められると、それを優先させる。友好関係にある個人、関連のある団体の企画の場合、なおさらのことである。国内・国際学会・会議への参加のほか、ワークショップ・ジョブ、Ringvorlesungでの共同討議・合同講義など、最近は、ヨーロッパ各国で開催されるこうした学術的催しも多い。1984年に公刊された論稿は、実際には、前年度に口頭で報告され、準備された論文である場合が少くない。こうした学術的行事なども考慮せねばならない。

b. 祝贺・追悼論文集 個人に対して、(1) Karl Bengl 退職記念論文集、(2) Peter Noll 追悼論文集、(3) Karl Peters 80歳祝贺論文集、団体に対して、(4) ベルリン法学協会創立150年記念論文集 (Hugo Neumann, Zur Geschichte der Juristischen Gesellschaft zu Berlin [1859-1903] Neudruck, 1984) が出た。(1)は、バイエルン州で永年にわたり司法行政に参画していた実務家への寄稿であり、大学関係者の寄稿は少い(ゲッセル)が、矯正・保護を含むバイエルン州の刑事司法に関心をもつむきには、参考となる論文が多い。(2)には、スイス国内はもとより、対案グループの教授達の寄稿も多く、テーマも刑事法のみならず、立法学の分野にも体系書を出した故人の業績をふまえた寄稿がある。(3)は、刑事法を中心とした論文集であり、実務家の寄稿も多い。定年後は、弁護士として、刑事鑑定にも活躍しているペータースの業績をたたえ、刑事弁護に関する論文が多く、かつ、そのライフワークである再審の項目にも多くの寄稿がなされている。(4)は、ベルリン自由大学の関係者と同協会に招かれて講演した学者が寄稿している。刑事法からは、ゲッペルト、カイザー、ミュラー・ディーツ、フォークラーの名が見える。

c. 弟子が集まって、区切りのよい年度に誕生祝贺会を開き、その機会に、旧師の学説を批判・発展させる企画が目につく。ロクシンの50歳祝贺(中山研一監修で邦訳企画中)、アルトゥール・カウフマンの60歳祝贺の論文集(紹介、浅田和茂他・警察研究57巻1, 2, 4号、昭和61年、連載中)が1984年度に公刊された。また、交通事故で急死したギーセン大学の Jürgen Rödiger 追悼シンポジウムの「立法学」に、刑法学者の寄稿(クルーク、シュライバー、トリフテラー)がみられる。

d. 国内会議で目につくのは、西南ドイツ犯罪学コロキウム20周年記念の会合が、フライブルクで開催され、犯罪学・経済刑法関係の2研究所が共同して、国際経済犯罪・環境犯罪・被害者化・行刑研究をテーマとするコロキウムを主催した(紹介、宮澤浩一・

罪と罰 23 卷 1 号, 1985 年)。カロリナ法典が 450 年前にレーゲンスブルクの旧市庁舎 (旧国会の所在地) で公布されたのを記念して, 1982 年に, 同大学で講演会が催された。その論文集が 1984 年に公刊された (シュレーダーがペーター・ランダウと共編した同書に, シルト, シュファスタイン, リューピングが寄稿している)。1984 年は, ナチス政権が崩壊した敗戦 40 周年の前年に当る。ナチスの刑事司法, 警察の批判, ナチス犯罪者の追及をテーマとする研究集会が開催され, ライフナーとゾンネン共編の書とウェーバーとシュタインバハの共編著が公刊された。主としては, ナチス犯罪追及センターとかかわっている実務家の手になる論文であるが, ゾンネン, マルクセンの名も見える。ナチス批判には, リューピングが数多くの論文を書いている。経済犯罪と政治犯罪には, スイス犯罪学グループがウワーク・ショップを行い, メルゲン, シェッヒ, ティーデマンが参加している。経済犯罪は, 最近のヨーロッパ理事会での主要なテーマである。これには, クーベ, オットーが発言し, 租税刑法には, レンクナー, マイワルト, シュリュヒターらも論文を寄せている。

国内の会議としては, ハンブルク市で開催された第 55 回ドイツ法曹会議で「刑事訴訟における被害者の法的地位」が扱われ, その決議を受けて, 85 年には, 社会民主党案や政府案が国会に提出されている。このテーマに関する意見書を提出したのは, ゲッティンゲン大学名誉教授のペーター・リースであるが, 研究者からは, ゲールツ, ユング, シェッヒが寄稿し (紹介, 官澤浩一・判例タイムズ 538 号), さらにエーザーも発言している。

e. 国際会議や刑事政策の国際的動向に敏感に反応するのも, 最近の西ドイツの研究動向の好ましい状況である。1985 年 9 月にカイロで開催された第 13 回国際刑法学会に寄せたドイツ代表の論文が全刑法学雑誌 96 卷 2 分冊に公刊された。前述の経済犯罪は勿論, 第 3 議題のダイバージョンと和解も, 多くの学者の関心の対象となっている (ハイッツ, クーベ)。非犯罪化, 軽微犯罪の処理, 起訴猶予, 社会内処遇の重視なども, 最近の学者の論文の主要テーマである (ナウケ; クンツ, キュルチンガー; ベルツ; ゼッサー, ワルター; クーリーの編著など)。第二回ドイツ・ソビエト刑法・犯罪学コロキウムには, エーザー (刑事訴訟における被疑者と被害者の地位) のほか, ロクシン (責任と犯人の人格), シュレーダー (刑事判決の適法性) が参加した。

f. 西ドイツの学者の解釈論, 刑法総論・各論の議論は, 抽象的議論のようにみえて, 実は, BGH の判例の動きに反応している。その意味では, 法律家として健全である。

総論のテーマとしての安楽死 (ルドルフ・シュミット), 正当防衛 (ベルツ, シュベンデル), 未遂 (キューバー), 各論では謀殺 (ケーラー, シュベンデル), 刑訴でのおとり (V-Mann) (ブルンス, ティーデマン) などは, すべて, BGH の判例を契機とした議論の展開である。時事問題のうち, 試験管ベビーについては, オステンドルフの論文が目につく。

g. 刑事政策に関しては, 以上で述べたところと重なる論文が多いが, その他として, カイザーが行刑の比較論を英文でまとめ, そのなかで日本の現状にふれている。執行猶予の要件の拡大は, 社会内処遇重視の政策の現われである。この点について, ケルナー

らの著書(紹介, 宮澤浩一・罪と罰22巻4号, 1985年)のほか, ベームが発言している。

未決拘禁法の立法に関して, 対案グループが提案をしている(バウマン案 1981年, 刑訴改正作業グループ案 1983年)。政府案作成の動きとのかかわりで, 発言する者が多い(ハッセマー, カイザー, ミュラー・ディーツ, シューバルト)。少年裁判所法とのかかわりでは, シューラー・シュプリングホルムやポトツケ(一般予防について論ずる)の論文のほか, ベームの判例分析が続いている。精神障害性犯罪者とアルコール依存性犯罪者に関して, スイスの犯罪学研究グループの会議録, ブラウとカンマイヤーの共編著のほか, キューネ自身の実証研究の報告が目につく。

④ こうして, 1984年の西ドイツの刑法学者の研究業績は, 多方面にわたり, しかも, 内外の刑事法学・実務・立法の動向に適切に対応している状況にあることを知りうる。

Vorbemerkungen

Im vorliegenden 8. Ergänzungsheft (zugleich die 5. Ergänzung zu „Die deutsche Strafrechtswissenschaft“, herausgegeben von Koichi Miyazawa, 1978) wurde die 1984 erschienene Literatur berücksichtigt (Stand: Ende 1984).

Wie in den früheren Heften der Fall war, sind alle Personen sowie ihre gesamten Schriften durchgehend nummeriert. Die Buchstaben a, b usw. verweisen auf nachträglich ergänzte Schriften.

Die Daten in Bezug auf einige Kollegen, die inzwischen ihre akademische Lehrtätigkeit angefangen haben, werden in das bald nachfolgende Heft für Jahrgang 1985 neu aufgenommen.

Für jegliche Hilfe, insbesondere für Hinweise auf Berichtigung bzw. Ergänzung bedanken wir uns im voraus.

Tokio, d. 10. April 1986.

Koichi Miyazawa

Makoto Ida

1. アッヘンバッハ (Hans Achenbach)

論文 (Aufsätze)

15. Übungsklausur Strafrecht (Fall aus dem Bereich des Betrugers, mit Randproblemen bei Urkundenfälschung und Untreue). Ein phantasiebegabter „Drücker“. Jura 1984, S. 602 ff.
16. Polygraphie pro reo? NSTZ 1984, S. 350 ff.
17. Individuelle Zurechnung, Verantwortlichkeit, Schuld. Schönemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems, 1984, S. 135 ff.

1a. アルブレヒト (Peter-Alexis Albrecht)

論文 (Aufsatz)

20. P.-A. Albrecht - F. Lamott, Innenansichten: Gruppendiskussion mit Bediensteten des Jugendstrafvollzugs. Schüler-Springorum - Albrecht (hrsg.), Jugendstrafe an Vierzehn- und Fünfzehnjährigen, 1983, S. 135 ff.

2. アメルンク (Knut Amelung)

論文 (Aufsätze)

- 15a. Zur Kritik des kriminalpolitischen Strafrechtssystems von Roxin. Schönemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems, 1984, S. 85 ff. (Nr. 15 と同じ)
17. Grenzen der Beschlagnahme notarieller Unterlagen. Deutsche Notarzeitschrift 1984, S. 195 ff.
18. K. Amelung - Jürgen Weidemann, Bestechlichkeit und Förderung einer Selbstschädigung im Maßregelvollzug - BGH, NJW 1983, 462, JuS 1984, S. 595 ff.
19. Zulässigkeit und Freiwilligkeit der Einwilligung bei strafprozessualen Grundrechtsbeeinträchtigungen. Freiheit und Verantwortung im Verfassungsstaat. Festgabe zum 10jährigen Jubiläum der Gesellschaft für Rechtspolitik, 1984, S. 1 ff.

3. アルツト (Gunther Arzt)

論文 (Aufsätze)

39. Viktimologie und Strafrecht. MSchrKrim 1984, S. 105 ff.
40. Schadensberechnungsprobleme beim Betrug. Gedächtnisschr. für Peter Noll, 1984, S. 169 ff.

6. バウマン (Jürgen Baumann)

論文 (Aufsätze)

146. Karl Peters 80 Jahre. JZ 1984, S. 81 f.
147. Ein reiches und umfassendes Werk. Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 1 ff.
148. Von der Funktion von Prozeß- und Verhandlungsfähigkeit und der Rechtswohlthat der Sachentscheidung. Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 7 ff.
149. Strafe als soziale Aufgabe. Gedächtnisschr. für Peter Noll, 1984, S. 27 ff.

6a. ベーレント (Hans-Joachim Behrendt)

論文 (Aufsatz)

5. Vorsatzgrenze und verfassungsrechtlicher Bestimmtheitsgrundsatz. Grundrechtsschutz im nationalen und internationalen Recht, 1983, S. 11 ff.

7b. ベルツ (Ulrich Berz)

論文 (Aufsätze)

30. Grundlagen des Versuchsbeginns. Jura 1984, S. 511 ff.
31. An der Grenze von Notwehr und Notwehrprovokation - BGH, NJW 1983, 2267.
JuS 1984, S. 340 ff.
32. Ordnungswidrigkeitenrecht. Handbuch für die öffentliche Verwaltung, Bd. 1,
1984, S. 359 ff.

8a. ブランケンブルク (Erhard Rudolf Blankenburg)

論文 (Aufsatz)

22. Rechtsohnmacht und instrumenteller Gebrauch von Recht. Zwei Elemente im
Rechtsbewußtsein der sogenannten postmateriellen Generation. RdJBW 1984, S. 281 ff.

8. ブラウ (Günter Blau)

共編 (Buch)

6. G. Blau - Heinz Kammeier (hrsg.), Straftäter in der Psychiatrie. Situation und
Tendenzen des Maßregelvollzuges, 1984.

論文 (Aufsätze)

- 64a. Neuere Entwicklung im Jugendkriminalrecht der USA. Vorbeugung statt
Strafen. Protokoll Nr. 128 der Ev. Akademie Hofgeismar, 1977, S. 31 ff.
68. G. Blau - Einhard Franke, Diversion and Mediation. RIDP vol. 54, 1984, p.
929 ff.
69. G. Blau - E. Franke, Diversion und Schlichtung. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 485 ff.
70. Schuld und Gefährlichkeit des psychisch abnormen Täters. Strafrechtsgeschicht-
liche, kriminologische und rechtsvergleichende Aspekte. G. Blau - Kammeier (hrsg.),
Straftäter in der Psychiatrie, 1984, S. 1 ff.

9a. ブロイ (René Bloy)

論文 (Aufsatz)

4. Freiheitsberaubung ohne Verletzung fremder Autonomie? Überlegungen zur
Reichweite des Tatbestandes des § 239 Abs. 1 StGB. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 703 ff.

11. ベーム (Alexander Bohm)

論文 (Aufsätze)

- 37a. Jugendstrafe und Jugendstrafvollzug. Die jugendrichterlichen Entscheidungen,
1981, S. 502 ff.

- 40a. Aus der neueren Rechtsprechung zum Jugendstrafrecht. NStZ 1984, S. 445 ff.
41. Zum Einfluß von Vollzugstheorien auf internationale Vereinbarungen zur Behandlung Gefangener. Idee und Realität des Rechts in der Entwicklung internationaler Beziehungen, 1983, S. 183 ff.
42. A. Böhm - Christopher Erhard, Die Praxis der bedingten Strafrestaussetzung. Eine Untersuchung zur Anwendung des § 57 StGB in Hessen. MSchrKrim 1984, S. 365 ff.
43. Der ausländische Strafgefangene im Spannungsfeld zwischen Resozialisierungsauftrag des Strafvollzuges und Zielsetzung des Ausländerrechts. Ausländerrecht contra Resozialisierung ? 1984, S. 118 ff.

11a. ボーネルト (Joachim Bohnert)

論文 (Aufsätze)

19. Die Entwicklung des Ordnungswidrigkeitenrechts. Jura 1984, S. 11 ff.
20. Die Abstraktheit der abstrakten Gefährdungsdelikte - BGH, NJW 1982, 2329. JuS 1984, S. 182 ff.

13a. ボトツケ (Wilfried Reinhold Bottke)

著書 (Buch)

4. Generalprävention und Jugendstrafrecht aus kriminologischer und dogmatischer Sicht, 1984.
論文 (Aufsätze)
23. Selbsttötung und Sterbehilfe als gemeinsame Grenzprobleme von Recht, Strafrecht und Moral. Zeitschr. f. evangelische Ethik, 1984, S. 321 ff.
24. Wahrheitspflicht des Verteidigers. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 726 ff.

15. ブルンス (Hans-Jürgen Bruns)

論文 (Aufsätze)

68. Die sog. „tatsächliche“ Betrachtungsweise im Strafrecht. Ihre methodische Bedeutung und ihr praktischer Anwendungsbereich. JR 1984, S. 133 ff.
69. Der Beschluß des Großen Senats zum strafprozessualen V-Mann-Problem - Anfang oder Ende einer notwendigen Neuorientierung der Rechtsprechung ? MDR 1984, S. 177 ff.
70. »Zur Frage der Folgen tatprovokierenden Verhaltens polizeilicher Lockspitzel«. Eine Besprechung des Urteils BGH I StR 148/48 v. 23. 5. 84. StrVert 1984, S. 388 ff.

20. クラマー (Peter Cramer)
論文 (Aufsatz)
27. Reform des Bußgeldverfahrens - Abbau des Rechtsschutzes für Verkehrsteilnehmer? Anwaltsblatt 1984, S. 281 ff.
22. デンカー (Friedrich Dencker)
論文 (Aufsatz)
11. § 323a StGB - Tatbestand oder Schuldform? - Zugleich Besprechung von BGHSt 32, 48 - JZ 1984, S. 453 ff.
24. エーベルト (Udo Ebert)
論文 (Aufsatz)
- 8a. Zur rechtlichen Problematik der Verjährung nationalsozialistischer Gewaltverbrechen. Zwischenstation 1979, S. 145 ff.
25. アイゼンベルヒ (Ulrich Eisenberg)
著書 (Buch)
5. Bestrebungen zur Änderung des Jugendgerichtsgesetzes, 1984.
論文 (Aufsätze)
17. U. Eisenberg - Ute Bödecker, Einführung in das Wahlfach Kriminologie. Jura 1984, S. 561 ff.
18. Vernehmung und Aussage (insbesondere) im Strafverfahren aus empirischer Sicht. Teil 1 u. 2. JZ 1984, S. 912 ff., 961 ff.
19. Der Verteidiger im Jugendstrafverfahren. NJW 1984, S. 2931 ff.
28. エンギッシュ (Karl Engisch)
著書 (Buch)
17. Beiträge zur Rechtstheorie, 1984.
29. エーザー (Albin Eser)
論文 (Aufsätze)
- 38a. Schroeder - Eser, Der Inland-Begriff im Strafrecht nach der neuen Rechtsprechung. Königsteiner Kreis, Jg. 1982, Nr. 1, S. 3 f.
42. Die Rechtsstellung des Beschuldigten und des Verletzten im Strafprozeßrecht der Bundesrepublik Deutschland. Jescheck - Kaiser - Eser (hrsg.), Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1984, S. 197 ff.

31. フェースト (Johannes Feest)
論文 (Aufsatz)
18. Kritik des „realen Abolitionismus“. KrimJ 1984, S. 229 ff.
34. フィンケ (Martin Fincke)
論文 (Aufsatz)
24. Die staatliche Anklage als prozessuale Funktion der Staatsanwaltschaft. Jescheck - Kaiser - Eser (hrsg.), Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1984, S. 283 ff.
37. ゲールツ (Friedrich Geerds)
論文 (Aufsätze)
- 68a. Sachbeweis und Sachverständigenbeweis in Strafsachen aus kriminalistischer Sicht. AKrim Bd. 172, 1983, S. 129 ff.
70. Zur Rechtsstellung des Verletzten im Strafprozeß. JZ 1984, S. 786 ff.
71. Zur sozialen Problematik des Versicherungsmißbrauchs. Die kriminellen Praktiken und ihre Folgen für das Versicherungswesen. Versicherungsrundschau 1984, S. 94 ff.
38. ガイレン (Gerd Geilen)
論文 (Aufsatz)
36. Repetitorium: Strafrecht. Grundfragen der falschen Verdächtigung (§ 164 StGB). Jura 1984, S. 251 ff., 300 ff.
39. ゲッペルト (Klaus Geppert)
論文 (Aufsätze)
22. Nachschulung alkoholauffälliger Ersttäter. Erste Erfahrungen aus dem Modellversuch in Baden-Württemberg. Blutalkohol 1984, S. 55 ff.
23. K. Geppert - Raimund Bartl, Das Problem der „kleinen“ bzw. „großen“ berichtenden Auslegung in § 246 StGB. Jura 1984, S. 615 ff.
24. Zum Einsichtsrecht des Strafgefangenen in die anstaltsärztlichen Krankenunterlagen. Dieter Wilke (hrsg.), Festschr. zum 125jährigen Bestehen der Juristischen Gesellschaft zu Berlin, 1984, S. 149 ff.
42. ゲッセル (Karl Heinz Gössel)
論文 (Aufsätze)

33. Verfahrensrechtliche Verwertungsverbote im Strafverfahren. Bemerkungen zu den Urteilen des BGH vom 16. 3. 1983-2 StR 775/82 und 17. 3. 1983-4 StR 640/82. JZ 1984, S. 361 ff.
34. Zur Lehre vom Unterlassungsdelikt. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 321 ff.
35. Alte und neue Wege der Fahrlässigkeitslehre. Festschr. für Karl Bengl, 1984, S. 23 ff.
43. グレーピング (Gerhardt Grebing)
論文 (Aufsatz)
30. Die Strafbarkeit der progressiven Kundenwerbung und der Wirtschaftsspionage im Entwurf zur Änderung des UWG. wistra 1984, S. 169 ff.
45. グリューンワルト (Gerald Grünwald)
論文 (Aufsatz)
33. Zu den Varianten der eingeschränkten Schuldtheorie. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 183 ff.
- 46a. ギュンター (Hans-Ludwig Günther)
1984年冬学期に、テュービンゲン大学教授に就任した。
WS 1984 Prof. Tübingen.
47. ハフケ (Bernhard Haflke)
論文 (Aufsatz)
20. Rückfall und Strafzumessung. Schünemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems, 1984, S. 197 ff.
48. ハフト (Fritjof Haft)
論文 (Aufsatz)
24. Juristische Hermeneutik und Rechtsrhetorik. Hassemer (hrsg.), Dimensionen der Hermeneutik, 1984, S. 91 ff.
50. ハナク (Ernst-Walter Hanack)
論文 (Aufsatz)
51. Zum Schwangerschaftsabbruch aus sog. kindlicher Indikation als Grenzproblem. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 197 ff.

52. ハッセマー (Winfried Hassemer)

編著 (Bücher)

11. Dimensionen der Hermeneutik. Arthur Kaufmann zum 60. Geburtstag, 1984.
12. Sozialwissenschaften im Strafrecht. Fälle und Lösungen in Ausbildung und Prüfung, 1984.

論文 (Aufsätze)

42. Die Voraussetzungen der Untersuchungshaft. Anwaltsblatt 1984, S. 64 ff.
43. Die Voraussetzungen der Untersuchungshaft. StrVert 1984, S. 38 ff.
44. Kommunikationsfreiheit in der Haft. ZRP 1984, S. 292 ff.
45. Die Hermeneutik im Werk Arthur Kaufmanns. Hassemer (hrsg.), op. cit., 1984, S. 1 ff.

54. ハイנטツ (Wolfgang Heinz)

論文 (Aufsätze)

- 20a. Theorie und Erklärung der Jugenddelinquenz. ZSchr. f. Pädagogik 29. Jg., 1983, S. 11 ff.
22. Strafrechtliche Sozialkontrolle - Beständigkeit im Wandel? BewHi 1984, S. 13 ff.
23. Ausbildung und Einsatzmöglichkeiten von Kriminologen. KrimBull 10. Jg., 1984, S. 3 ff.
24. Strategien der Diversion in der Jugendgerichtsbarkeit der Bundesrepublik Deutschland. RdJBW 1984, S. 291 ff.
25. Konzeption und Grundsätze des Wirtschaftsstrafrechts (einschließlich Verbraucherschutz). Kriminologischer Teil. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 417 ff.
26. Ambulante Maßnahmen - kriminologische Überlegungen und Ausblick. H. Kury (hrsg.), Ambulante Maßnahmen zwischen Hilfe und Kontrolle, 1984, S. 439 ff.

55. ヘルマー (Joachim Hellmer)

著書 (Buch)

13. Das ethische Problem in der Kriminologie dargestellt am Beispiel einer empirischen Untersuchung über regional erhöhte Kriminalität, 1984.

59. ヘルマン (Joachim Herrmann)

論文 (Aufsatz)

27. Diversion and Mediation. RIDP vol. 54, 1984, p. 1043 ff.
28. Diversion und Schlichtung in der Bundesrepublik Deutschland. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 455 ff.

60. ヘルツベルヒ (Rolf Dietrich Herzberg)

論文 (Aufsätze)

22. Die Schuld beim Fahrlassigkeitsdelikt. Jura 1984, S. 402 ff.
23. Der reumütige Kurschatten: Ein Bericht über eine strafrechtliche Examensklausur. JuS 1984, S. 369 ff.
24. Zivilrechtliche Verschiebungen zur Schließung von Strafbarkeitslücken? Probleme des Tankens ohne zu zahlen. NJW 1984, S. 896 ff.
25. Strafrechtliche Verantwortung der Betriebsärzte und Sicherheitskräfte bei der Durchführung ihrer Aufgaben. Die Berufsgenossenschaft, 1984, S. 92 ff.

65. ホルン (Eckhard Horn)

論文 (Aufsätze)

28. Strafbarkeit der Zwangssterilisation. Deutsches Ärzteblatt 1984, S. 1105 ff.
29. Sprachfehler, Formfehler, Denkfehler. Jura 1984, S. 499 ff.

69. イェーガー (Herbert Jäger)

論文 (Aufsätze)

24. Friedensgefährdung durch Massenvernichtungsmittel - ein Gegenstand der Kriminalwissenschaften? KrimJ 1984, S. 1 ff.
25. Möglichkeiten einer weiteren Reform des Sexualstrafrechts. Sexualtheorie und Sexualpolitik 1984, S. 67 ff.

71. イェシェック (Hans-Heinrich Jescheck)

編著 (Bücher)

22. Erstes deutsch-polnisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1983.
23. Jescheck - Kaiser - Eser (hrsg.), Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1984.

論文 (Aufsätze)

132. Politique criminelle moderne en Europe occidentale, communication. Arch. de Politique Criminelle. Tome 7, 1984, p. 23 ff.
133. Diskussionsbericht: 1. Die Rückfallkriminalität und ihre Bekämpfung in Polen und in der Bundesrepublik Deutschland. 2. Die Behandlung der Bagatellkriminalität in der Bundesrepublik Deutschland und in Polen. Jescheck (hrsg.), Erstes deutsch-polnisches Kolloquium usw., op. cit., 1983, S. 259 ff., 266 ff.
134. Die Berücksichtigung der Täterpersönlichkeit bei der Strafzumessung nach deutschem Recht. Jescheck et al., Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium usw., op. cit.,

1984, S. 127 ff.

72. ユング (Heike Jung)

著書 (Buch)

10. Le système des sanctions dans le droit pénal des mineurs en R. R. A., 1984.

論文 (Aufsätze)

41a. Die jugendrichterlichen Entscheidungen. Anspruch und Wirklichkeit. Die jugendrichterlichen Entscheidungen, 1981, S. 18 ff.

49. Zur Rechtsstellung des Verletzten im Strafverfahren. JR 1984, S. 309 ff.

50. Bericht: Das vierte Internationale Symposium für Viktimologie. Ein Tagungsbericht. MSchrKrim 1984, S. 126 ff.

51. Der sog. Grundsatz der gerichtlichen Fürsorgepflicht. Recht und Gesetz im Dialog. T. 2, 1984, S. 107 ff.

73. カイザー (Günther Kaiser)

著書 (Buch)

16. Prison Systems & Correctional Laws: Europe, the United States, and Japan. A Comparative Analysis, 1984.

論文 (Aufsätze)

94a. Möglichkeiten der Entkriminalisierung nach dem Jugendgerichtsgesetz im Vergleich zum Ausland. ZSchr. f. Pädagogik 29. Jg., 1983, S. 31 ff.

99. Kindesmißhandlung gestern und heute aus kriminologischer Sicht. Kindesmißhandlung, 1983, S. 11 ff.

100. G. Kaiser - Volker Meinberg, „Tuschelverfahren“ und „Millionärsschutzparagraph“? Empirische Erkenntnisse zur Einstellung nach § 153a StPO am Beispiel Wirtschaftskriminalität. NStZ 1984, S. 343 ff.

101. Zweckstrafrecht und Menschenrechte. SchwJZ 1984, S. 329 ff.

102. Kriminologie in Zürich. SchwZStr Bd. 101. 1984, S. 367 ff.

103. Wie begründet ist die Verbrechensfurcht? Kriminalität und Kriminalitätsentwicklung in der Bundesrepublik. Der Bürger im Staat, 1984, S. 254 ff.

104. Kriminalisierung und Entkriminalisierung im heutigen Strafrecht. Jescheck et al., Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium usw., 1984, S. 165 ff.

105. Die gesetzliche Regelung über den Vollzug der Untersuchungshaft und ihre Reform. Festschr. zum 125 jährigen Bestehen der Juristischen Gesellschaft zu Berlin, 1984, S. 299 ff.

75. アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)
論文 (Aufsätze)
79. Über den „Wesensgehalt“ der Grund- und Menschenrechte. ARSP vol. LXX
1984, S. 384 ff.
80. Über Grund und Zweck der Strafe. botschaft und dienst. Zeitschr. f. Erwach-
senen-Bildung, Sept./Okt., 1984, S. 8 ff.
81. Recht und Gnade in der Literatur. NJW 1984, S. 1062 ff.
82. Rechtsphilosophie und Nationalsozialismus. Information Philosophie Juni 1984,
S. 3 ff.
83. Gesetz und Evangelium. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 61 ff.
84. Paul Johann Anselm v. Feuerbach — Jurist des Kritizismus. Eine Skizze. Land
und Reich, Stamm und Nation, Probleme und Perspektiven bayerischer Geschichte.
Festgabe für Max Spindler zum 90. Geburtstag. Bd. III. Vom Vormärz bis zur
Gegenwart, 1984, S. 181 ff.
78. ケルナー (Hans-Jurgen Kerner)
共著 (Buch)
5. H.-J. Kerner - Dieter Hermann - Renate Bockwoldt, Straf(rest)aussetzung und
Bewährungshilfe. Eine deskriptive Analyse beruflicher Einstellung von Bewährungs-
helfern, mit ergänzenden Hinweisen zur Entwicklung und Struktur der Bewäh-
rungshilfe in der Bundesrepublik Deutschland, 1984.
論文 (Aufsätze)
31. H.-J. Kerner - Dieter Hermann, Belastungen des Probanden. Situation des Be-
währungshelfers und Bewährungserfolg. BewHi 31. Jg., 1984, S. 136 ff.
32. Internationaler Überblick über ausländische Entwicklungen zur Entregelung im
Jugendrecht. RdJBW 1984, S. 327 ff.
33. Theoretische Grundlagen der Kriminalistik. Kube et al., Wissenschaftliche Kri-
minalistik. Teilband 2, 1984, S. 9 ff.
80. キーナッペル (Diethelm Kienapfel)
論文 (Aufsätze)
- 37a. Der Begriff der öffentlichen Urkunde im Strafrecht. Strafrechtliche Probleme
der Gegenwart, Bd. 10, 1982, S. 93 ff. (=Nr. 37 と同じ)
41. Private Beweiszeichen. Bemerkungen zu E 9 Os 103/82. ÖJZ 1984, S. 85 ff.

81. クラインクネヒト (Theodor Kleinknecht)
論文 (Aufsatz)
- 16a. Die strafrechtlichen Grenzen der Euthanasie in der Geriatrie. Euthanasieprobleme, 1977, S. 33 ff.
82. クルーク (Ulrich Klug)
論文 (Aufsatz)
36. Die Bedeutung Jürgen Rödig für die Entwicklung der Gesetzgebungslehre. H. Schäffer - O. Triffterer, Rationalisierung der Gesetzgebung. Jürgen Rödиг Gedächtnissymposium, 1984, S. 25 ff.
- 82a. ケーラー (Michael Köhler)
論文 (Aufsatz)
6. Zur Strafbarkeit des Mordes bei „außergewöhnlichen Umständen“ - BGHSt 30, 105. JuS 1984, S. 762 ff.
83. コールマン (Günter Kohlmann)
論文 (Aufsätze)
25. Zur Rechtsstellung der Aussageperson vor parlamentarischen Untersuchungsausschüssen. JA 1984, S. 670 ff.
26. Untreue zum Nachteil des Vermögens einer GmbH trotz Zustimmung sämtlicher Gesellschafter? Festschr. f. Winfried Werner, 1984, S. 387 ff.
85. クラウゼ (Friedrich Wilhelm Krause)
論文 (Aufsatz)
24. Verfolgungspflicht bei privater Kenntnis und Strafvereitelung im Amt. JZ 1984, S. 548 ff.
86. クラウス (Detlef Krauß)
論文 (Aufsatz)
17. Der strafrechtliche Konflikt zwischen Glaubensfreiheit und Kunstfreiheit. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 209 ff.
87. クレブス (Albert Krebs)
論文 (Aufsatz)
102. Neue Beiträge zur Biographie. Erinnerungen eines Weggenossen. Wilfried Huber

u. Albert Krebs (hrsg.), Adolf Reichwein 1898-1944, 1981, S. 17 ff.

89. クライ (Volker Krey)

論文 (Aufsatz)

13a. Grundzüge des Strafverfahrensrechts. JA 1984, S. 135 ff., 288 ff., 475 ff., 573 ff.

90. クリュンベルマン (Justus Krümpelmann)

論文 (Aufsätze)

16. Zur Kritik der Lehre vom Risikovergleich bei den fahrlässigen Erfolgsdelikten. JA 1984, S. 492 ff.

17. Täuschungen mit Wahrheitskern bei § 145d Abs. 1 Ziff. 1 StGB. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 999 ff.

90b. クーベ (Edwin Kube)

共編 (Buch)

10. Kube - Störzer - Brugger (hrsg.), Wissenschaftliche Kriminalistik. Bd. 16, Teilband 2, 1984.

論文 (Aufsätze)

51. Diversion - der „Stein der Weisen“ zur Eindämmung der Jugendkriminalität? AKrim Bd. 174, 1984, S. 154 ff.

52. Wissenschaftliche Kriminalistik - Ziele und Aufgaben -. Kube et al., op. cit., 1984, S. 413 ff.

53. Prävention von Wirtschaftsdelikten - Utopie oder reale Chance? Wirtschaftskriminalität, 1984, S. 135 ff.

90a. キュール (Kristian Kühl)

論文 (Aufsatz)

13. Unschuldsumsetzung und Einstellung des Strafverfahrens. Die neueste Rechtsprechung des Europäischen Gerichtshofs für Menschenrechte zu Art. 6 II MRK. NJW 1984, S. 1264 ff.

91. キューネ (Hans Heiner Kühne)

論文 (Aufsatz)

32. Therapie statt Strafe? Legislatorische Versuche zur Bekämpfung von Drogenabhängigkeit. MSchrKrim 1984, S. 379 ff.

91-1. クンツ

1984年冬学期に、ベルン大学教授に就任した。

WS 1984 Prof. Bern.

著書 (Buch)

2. Das strafrechtliche Bagatellprinzip. Eine strafrechtsdogmatische und kriminalpolitische Untersuchung, 1984.

論文 (Aufsätze)

12. Die automatisierte Gegenwehr. Zur Zulässigkeit der Offensivverteidigung mit selbsttätigen Schutzvorrichtungen. GA 1984, S. 539 ff.
13. Die Verdrängung des Richters durch den Staatsanwalt: eine zwangsläufige Entwicklung effizienzorientierter Strafrechtspflege? KrimJ 1984, S. 39 ff.

92. キューパー (Wilfried Küper)

論文 (Aufsätze)

43. Zur Problematik des Rücktritts von der Verbrechenverabredung. Zugleich Anmerkung zum Urteil des BGH vom 7. 10. 1983. JR 1984, S. 265 ff.
44. Zur Abgrenzung von Vorbereitung und Versuch. NJW 1984, S. 777 f.
45. Historische Bemerkungen zur „freien Beweiswürdigung“ im Strafprozeß. Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 23 ff.

93. キュルツィンガー (Josef Kürzinger)

論文 (Aufsatz)

12. Die Bagatellkriminalität in der Bundesrepublik Deutschland. Kriminologische Aspekte. Jescheck (hrsg.), Erstes deutsch-polnisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1983, S. 165 ff.

95. ランベ (Ernst-Joachim Lampe)

論文 (Aufsatz)

30. Bedingungen richtiger Strafzumessung. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 231 ff.

97. ランゲ (Richard Lange)

論文 (Aufsatz)

120. Die Behandlung Abnormer und Drogenabhängiger in der Bundesrepublik Deutschland. Psychisch abnorme und drogenabhängige Rechtsbrecher, 1984, S. 63 ff.

101. レンクナー (Theodor Lenckner)

論文 (Aufsätze)

33. Th. Lenckner - Wolfgang Winkelbauer, Strafrechtliche Probleme im modernen Zahlungsverkehr. wistra 1984, S. 83 ff.
34. Die Wahrnehmung berechtigter Interessen, ein „übergesetzlicher“ Rechtfertigungsgrund? Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 243 ff.

104. リューダーセン (Klaus Lüderssen)

著書 (Buch)

15. Kriminologie. Einführung in die Probleme, 1984.
論文 (Aufsätze)
- 28a. Eine Sache des Vertrauens. KrimJ 1983, S. 161 ff.
35. „Ich will lieber eine Ungerechtigkeit begehen, als Unordnung ertragen“. Notizen über Goethes Verhältnis zum Recht. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 75 ff.
36. Diskriminierung durch Alleinlassen. Vernachlässigte Probleme der Strafjustiz im Niemandsland zwischen Sozialarbeit und Psychiatrie. Klaus Menne (hrsg.), Psychoanalyse und Justiz. Zur Begutachtung und Rehabilitation von Straftätern, 1984, S. 57 ff.

108. マイワルト (Manfred Maiwald)

著書 (Buch)

3. Unrechtskenntnis und Vorsatz im Steuerstrafrecht, 1984.
論文 (Aufsätze)
22. Zurechnungsprobleme im Rahmen erfolgsqualifizierter Delikte — BGHSt 31, 96. JuS 1984, S. 439 ff.
23. Zur Problematik der „besonders schweren Fälle“ im Strafrecht. NSTz 1984, S. 433 ff.

110a. マルクセン (Klaus Marxen)

著書 (Bücher)

3. Straftatsystem und Strafprozeß, 1984 (Frankfurter Habil.)
4. Rechtliche Grenzen der Amnestie, 1984.
論文 (Aufsätze)
5. Alfred Rinken - Gert Brüggemeier - Klaus Marxen, Sitzblockaden gegen Rake-
tationierung. Kritische Justiz 1984, S. 44 ff.
6. Zum Verhältnis von Strafrechtsdogmatik und Strafrechtspraxis im Nationalsozia-

lismus. Udo Reifner - B.-R. Sonnen (hrsg.), Strafrecht und Polizei im Dritten Reich, 1984, S. 77 ff.

113. メルゲン (Armand Mergen)

論文 (Aufsätze)

50. Kriminalität in Wirtschaft und Politik. Politische Kriminalität und Wirtschaftskriminalität, 1984, S. 1 ff.
51. Wie wird man eigentlich Verbrecher? Zwischen Anlage und Umwelt - Verbrechenstheorien. Der Bürger im Staat, 1984, S. 260 ff.
52. Der interdisziplinäre Ansatz der Kriminologie in der Behandlung des psychisch abnormen und drogenabhängigen Rechtsbrechers. Psychisch abnorme und drogenabhängige Rechtsbrecher, 1984, S. 147 ff.

113a. モイラー (Dieter Meurer)

論文 (Aufsatz)

12. Die Zulässigkeit der Rechtsbeschwerde gegen Beschlussscheidungen in Bußgeldsachen. Rechtsprechungsüberblick zu §§ 72, 79 I Nr. 5 OWiG und Kritik. NSTZ 1984, S. 8 ff.

114. ユルゲン・マイヤー (Jürgen Meyer)

論文 (Aufsatz)

19. Wiederaufnahme bei Teilrechtskraft. Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 375 ff.

114a. マリア = カタリナ・マイヤー (Maria-Katharina Meyer)

著書 (Buch)

1. Zur Rechtsnatur und Funktion des Strafantrags, 1984.

論文 (Aufsatz)

3. Jugendstrafe wegen »Schwere der Schuld«. Erziehungsstrafe und/oder »Schuldgleich«? ZBlfJR 71. Jg., 1984, S. 445 ff.

116. ミーエ (Olaf Miehe)

論文 (Aufsatz)

14. Die großen Gesamtdarstellungen der Kriminologie und ihre Aussagen zu Kindheit, Jugend und Familie. FamRZ 1984, S. 16 ff.

118. モース (Reinhard Moos)

論文 (Aufsätze)

- 14a. Die Rechtsnatur der Strafbefreiung wegen mangelnder Strafwürdigkeit der Tat (§ 42 StGB). Strafrechtliche Probleme der Gegenwart, Bd. 10, 1982, S. 1 ff.
17. Die Zweiteilung der Hauptverhandlung im Strafprozeß. Strafrechtliche Probleme der Gegenwart, Bd. 12, 1983, S. 1 ff. (=Nr. 15 と同じ)
18. Strafbare Handlungen gegen Leib und Leben. Wiener Kommentar zum StGB. §§ 75-79. Lieferung 22, 1984, S. 1 ff.

119. ミュラー=ディーツ (Heinz Müller-Dietz)

論文 (Aufsätze)

121. Aphoristik und Recht im Werk Carl August Emges. ARSP vol. 70, 1984, S. 113 ff.
122. Schuldschwere und Urlaub aus der Haft. JR 1984, S. 353 ff.
123. Über den Vorsatz, fahrlässiges Konservieren von Vorschriften zu beenden. JZ 1984, S. 26 ff.
124. Literatur und Kriminalität. JZ 1984, S. 698 ff.
125. 20 Jahre Colloquium der Südwestdeutschen Kriminologischen Institute. MSchr-Krim 1984, S. 198 ff.
126. Sittlichkeit und Kriminalität. Anmerkungen zu Werk von Karl Kraus. NJW 1984, S. 1069 ff.
127. Problematik und Reform des Vollzuges der Untersuchungshaft. StrVert 1984, S. 79 ff.
128. Der Leipziger Kommentar zum Strafgesetzbuch (LK). ZStrVo 33. Jg., 1984, S. 147 ff.
129. Recht und Aphoristik. Dieter Wilke (hrsg.), Festschrift zum 125jährigen Bestehen der Juristischen Gesellschaft zu Berlin, 1984, S. 457 ff.
130. Was ist Gewalt im strafrechtlichen Sinn? Was ist gewaltfrei? Ziviler Ungehorsam? 1984, S. 16 ff.
131. Zur literarischen und juristischen Hermeneutik. Hassemer (hrsg.), Dimensionen der Hermeneutik, 1984, S. 157 ff.
132. 20 Jahre Süddeutsche Kriminologische Kolloquien. Hans-Jörg Albrecht - Ulrich Sieber (hrsg.), Zwanzig Jahre Süddeutsche Kriminologische Kolloquien, 1984, S. 3 ff.

121. ナウケ (Wolfgang Naucke)

論文 (Aufsatz)

36. Über deklaratorische, scheinbare und wirkliche Entkriminalisierung. GA 1984, S. 199 ff.

121a. ノイマン (Ulfrid Neumann)

論文 (Aufsätze)

11. Zur Frage der Rechtskraft von Strafbefehlen. NJW 1984, S. 779 f.
12. Zum Verhältnis von philosophischer und juristischer Hermeneutik. Hassemer (hrsg.), Dimensionen der Hermeneutik, 1984, S. 49 ff.

123. ノル (Peter Noll)

1982年10月9日, 56歳で, チューリッヒにおいて死去した。ガンとの闘いを記録した本が公刊され, 多くの人々に深い感銘を与えた。

Am 9. Oktober 1982 war Peter Noll mit dem Alter von 56 in Zürich verstorben.

Robert Hauser - Jörg Rehberg - Günter Stratenwerth (hrsg.), Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984.

Verzeichnis der Publikationen von Peter Noll, op. cit., S. 415-419.

遺著 (Buch)

11. Diktate über Sterben und Tod mit Totenrede von Max Frisch, 1984. Louise Naef-Greber - Giatgen-Peder Fontana, Schriftenverzeichnis Peter Noll, op. cit., S. 353 ff.

124. エーラー (Dietrich Oehler)

論文 (Aufsätze)

55. Das neue Recht der Internationalen Rechtshilfe in Strafsachen. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 555 ff.
56. Neuer Wandel in den Bestimmungen über den strafrechtlichen Geltungsbereich in den völkerrechtlichen Verträgen. Einigkeit und Recht und Freiheit. Bd. 1, 1984, S. 435 ff.

124a. オステンドルフ (Heribert Ostendorf)

論文 (Aufsätze)

35. Das Recht zum Hungerstreik. GA 1984, S. 308 ff.
36. Experimente mit dem „Retortenbaby“ auf dem rechtlichen Prüfstand. JZ 1984, S. 595 ff.

125. オットー (Harro Otto)

著書 (Bücher)

- 1a. Übungen im Strafrecht. 2. Aufl., 1984.
- 3a. Grundkurs Strafrecht. Die einzelnen Delikte. 2. Aufl., 1984.
論文 (Aufsätze)
35. Selbstgefährdung und Fremdverantwortung - BGH NJW 1984, 1469-. Jura 1984, S. 536 ff.
36. Die Aussagedelikte, §§ 153-163 StGB. JuS 1984, S. 161 ff.
37. Konzeption und Grundsätze des Wirtschaftsstrafrechts (einschließlich Verbraucherschutz). Dogmatischer Teil 1. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 339 ff.

126. ペーターズ (Karl Peters)

1984年1月23日に、80歳の誕生日を迎えた。祝賀論文集が公刊された。

Am 23. Januar 1984 wurde Karl Peters 80 Jahre.

祝賀文 (Glückwünsche)

J. Baumann, Karl Peters 80 Jahre. JZ 1984, S. 81 f.; Klaus Tiedemann, Karl Peters zum 80. Geburtstag. NJW 1984, S. 161 f.

Klaus Wasserburg - Wilhelm Haddenhorst (hrsg.), Wahrheit und Gerechtigkeit im Strafverfahren. Festgabe für Karl Peters aus Anlaß seines 80. Geburtstages, 1984.

Verzeichnis der Schriften und Abhandlungen von Karl Peters (Ergänzung des Schrifttumsverzeichnisses in der Festschrift 1974), op. cit., S. 473 ff.

論文 (Aufsatz)

190. Kriminalistik und Strafrechtspflege. AKrim Bd. 173, 1984, S. 1 ff.

127. フィリップス (Lothar Philipps)

論文 (Aufsatz)

12. Juristische Hermeneutik und Lehrtechnologie. Hassemer (hrsg.), Dimensionen der Hermeneutik, 1984, S. 103 ff.

128a. プッペ (Ingeborg Puppe)

論文 (Aufsätze)

18. Der objektive Tatbestand der Anstiftung. GA 1984, S. 101 ff.
19. Exklusivität von Tatbeständen. JR 1984, S. 229 ff.
20. Aus juristischer Sicht: Zur Problematik der Sterbehilfe. Niedersächsisches Ärzteblatt 1984, S. 26 ff., 30.
21. Der halbherzige Rücktritt. Zugleich eine Besprechung von BGH 31. 46. NStZ

1984, S. 468 ff.

129. クヴェンゼル (Stephan Quensel)

論文 (Aufsatz)

55. Kriminologische Forschung: Für wen? Oder: Grenzen einer rationalen Kriminalpolitik. KrimJ 16. Jg., 1984, S. 201 ff.

130a. ランフト (Otfried Ranft)

論文 (Aufsätze)

9. Grundfälle aus dem Bereich der Vermögensdelikte. JA 1984, S. 1 ff., 277 ff., 723 ff.
10. Berücksichtigung hypothetischer Bedingungen beim fahrlässigen Erfolgsdelikt? Zugleich eine Kritik der Formel vom „rechtmäßigen Alternativverhalten“. NJW 1984, S. 1425 ff.

130b. リース (Peter Rieß)

著書 (Buch)

2. Die Rechtsstellung des Verletzten im Strafverfahren. Gutachten C für den 55. Deutschen Juristentag. Verhandlungen des 55. Deutschen Juristentages. Bd. 1, 1984.
論文 (Aufsätze)
45. Die Rechtsstellung des Verletzten im Strafverfahren. JA 1984, S. 485 ff.
46. Amtlich verwahrte Beweisstücke (§ 147 StPO). Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 113 ff.
47. Entscheidung über die Eröffnung der Hauptverhandlung. Löwe - Rosenberg, Großkommentar zur StPO. 24. Aufl., 2. Lieferung, §§ 198 - 212b, 1984, S. 1 ff.

131. ロリンスキー (Klaus Rolinski)

論文 (Aufsatz)

12. Argumentationsfiguren, eine Einflussgröße des informellen Gesetzgebers? Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 101 ff.

133. ロクシン (Claus Roxin)

論文 (Aufsätze)

73. Sul problema del diritto penale delle colpevolezza. Riv. it. d. dir. e proc. pen., 1984, p. 16 ff.
74. Zur Problematik des Schuldstrafrechts. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 641 ff.
75. Die durch Täuschung herbeigeführte Einwilligung im Strafrecht. Gedächtnisschr.

f. Peter Noll, 1984, S. 275 ff.

76. Die Grundlagen der strafrechtlichen Verantwortlichkeit und die Persönlichkeit des Täters. Jescheck et al. (hrsg.), Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1984, S. 37 ff.

134. ルドルフィー (Hans-Joachim Rudolphi)

論文 (Aufsätze)

36. Häusliche Gemeinschaften als Entstehungsgrund für Garantenstellungen? NStZ 1984, S. 149 ff.
37. Primat des Strafrechts im Umweltschutz. NStZ 1984, S. 193 ff., 248 ff.
38. Der Zweck staatlichen Strafrechts und die strafrechtlichen Zurechnungsformen. B. Schünemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems. 1984, S. 69 ff.

135. リューピング

論文 (Aufsätze)

26. Rüping - Frank Arloth, Steuergeheimnis und Strafverfahren. Der Betrieb 1984, S. 1795 ff.
27. Strafjustiz im Führerstaat. GA 1984, S. 297 ff.
28. „Streng aber gerecht. Schutz der Staatssicherheit durch den Volksgerichtshof“. JZ 1984, S. 815 ff.
29. Blankettnormen als Zeitgesetze. NStZ 1984, S. 450 ff.
30. Rechtsbehelfe im Steuerstrafverfahren. Steuerkontrolle 1984, S. 95 ff.
31. „Bestimmtes“ Strafrecht und „unbestimmtes“ Steuerrecht. Zum Bestimmtheitsgebot im Steuerrecht und Steuerstrafrecht. Steuerkontrolle 1984, S. 129 ff.
32. Die Carolina in der strafrechtlichen Kommentarliteratur. Zum Verhältnis von Gesetz und Wissenschaft im gemeinen deutschen Strafrecht. P. Landau - Fr.-Chr. Schroeder (hrsg.), Strafrecht, Strafprozess und Rezeption, 1984, S. 161 ff.

141. シャフスタイン (Friedrich Schaffstein)

論文 (Aufsatz)

76. Die Bedeutung der Carolina für die Entwicklung strafrechtlicher Deliktstatbestände. P. Landau - F.-Chr. Schroeder (hrsg.), Strafrecht, Strafprozess und Rezeption, 1984, S. 145 ff.

142. シルト (Wolfgang Schild)

論文 (Aufsätze)

53. Ende und Zukunft des Strafrechts. ARSP vol. 70, 1984, S. 71 ff.
54. Die „Objektivität“ des Geistes als Thema der Rechtsphilosophie Hegels. Objektivierung des Rechtsdenkens. Gedächtnisschr. f. Ilmar Tammelo, 1984, S. 377 ff.
55. Schillers „Verbrecher aus verlorener Ehre“: Gedanken zu einem juristisch-hermeneutischen Handlungsbegriff. Hassemer (hrsg.), Dimensionen der Hermeneutik, 1984, S. 111 ff.
56. Der „entliche Rechtstag“ als das Theater des Rechts. P. Landau - F.-Chr. Schroeder (hrsg.), Strafrecht, Strafprozess und Rezeption, 1984, S. 119 ff.
57. Das Verständnis des Missetäters im normativen Wandel des Politischen. Vom normativen Wandel des Politischen, 1984, S. 117 ff.

143. シリング (Georg Schilling)

論文 (Aufsatz)

5. Die falsche Verdächtigung nach § 164 StGB. GA 1984, S. 345 ff.

143a. シュリュヒター (Ellen Schlüchter)

論文 (Aufsätze)

7. Zusammenhang zwischen Pflichtwidrigkeit und Erfolg bei Fahrlässigkeitstatbeständen. JA 1984, S. 673 ff.
8. Zur unvollkommenen Kongruenz zwischen Kredit- und Scheckkarten - NJW 1984, 1633. JuS 1984, S. 675 ff.
9. Zum „Minimum“ bei der Auslegung normativer Merkmale im Strafrecht. NSTZ 1984, S. 300 ff.
10. Zur Bewertung der Aktiva für die Frage der Überschuldung. wistra 1984, S. 41 ff.

145. シュミットホイザー (Eberhard Schmidhäuser)

著書 (Buch)

- 5a. Einführung in das Strafrecht. 2. Aufl., 1984.

148. ルドルフ・シュミット (Rudolf Schmitt)

論文 (Aufsätze)

31. Zwei Strafrechtsklausuren für Anfänger Jura 1984, S. 548 ff.
32. Der Arzt und sein lebensmüder Patient - Zugleich eine Besprechung des Urteils

des BGH vom 4. 7. 1984 - 3 StR 96/84 -. JZ 1984, S. 866 ff.

33. Aktivierung des „Verfalls“ ! Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 295 ff.

149. シュナイダー (Hans Joachim Schneider)

編著 (Buch)

124. Das organisierte Verbrechen. Jura 1984, S 169 ff.

150. シェッヒ (Heinz Schöch)

論文 (Aufsätze)

24. Die Stellung sozialer Betreuung im Rahmen der Strafzwecke. Alternativen zum Freiheitsentzug ? 1983, S. 6 ff.

25. Die Rechtsstellung des Verletzten im Strafverfahren. NStZ 1984, S. 385 ff.

26. Möglichkeiten und Grenzen der Behandlung Straffälliger in Freiheit. H. Kury (hrsg.), Ambulante Maßnahmen zwischen Hilfe und Kontrolle, 1984, S. 29 ff.

27. Strafverfolgung und Strafzumessung bei der Steuerhinterziehung. Politische Kriminalität und Wirtschaftskriminalität, 1984, S. 227 ff.

154. シュライバー (Hans-Ludwig Schreiber)

論文 (Aufsatz)

39. Ist eine Effektivitätskontrolle von Strafgesetzen möglich ? H. Schafer - O. Triffterer, Rationalisierung der Gesetzgebung. Jürgen Rüdig Gedächtnissymposium, 1984, S. 178 ff.

155. シュレーダー (Friedrich-Christian Schroeder)

編著 (Buch)

18. Peter Landau - Friedrich-Christian Schroeder (hrsg.), Strafrecht, Strafprozess und Rezeption. Grundlagen, Entwicklung und Wirkung der Constitutio Criminalis Carolina, 1984.

論文 (Aufsätze)

100a. Schroeder - Eser. Der Inland-Begriff im Strafrecht nach der neuen Rechtsprechung. Königsteiner Kreis. Jg. 1982, Nr. 1, S. 3 f.

104. Einleitung. Landau - Schroeder, op. cit., 1984, S. 1 ff.

105. Grundgedanken der Mordmerkmale. JuS 1984, S. 275 ff.

106. Anleitung für strafrechtliche Übungsarbeiten. JuS 1984, S. 699 ff.

107. Tanken ohne Bezahlen - BGH, NJW 1983, 2827. JuS 1984, S. 846 ff.

108. Die Überprüfung der Rechtmäßigkeit und Begründetheit eines Strafurteils.

Jescheck et al. (hrsg.), Zweites deutsch-sowjetisches Kolloquium über Strafrecht und Kriminologie, 1984, S. 325 ff.

156a. シューバルト (Martin Schubarth)

論文 (Aufsätze)

17. Die zeitliche Begrenzung von Untersuchungshaft. Der Gesetzentwurf zur Untersuchungshaft des Arbeitskreises Strafprozeßreform. Anwaltsblatt 1984, S. 69 ff.
18. Die Bedeutung der Dreisprachigkeit der schweizerischen Gesetze für das Normverständnis. H. Schäfer - O. Triffterer (hrsg.), Rationalisierung der Gesetzgebung. Jürgen Rüdiger Gedächtnissymposium, 1984, S. 90 ff.
19. Insidermissbrauch - Zur Funktion und zum Hintergrund eines neuen Straftatbestandes. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 303 ff.

157. シューラー = シュプリンゴルム (Horst Schüler-Springorum)

論文 (Aufsätze)

34. Strafrechtliche Aspekte zivilen Ungehorsams. Ziviler Ungehorsam im Rechtsstaat, 1983, S. 76 ff.
35. Jugendgerichtsverfahren und Kriminalprävention - Zu den Ergebnissen des 19. Deutschen Jugendgerichtstages vom 3. bis 10. 1983 in Mannheim. DRiZ 1984, S. 183 ff.
36. Zum Verhältnis von Kriminologie und Kriminalpolitik. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 141 ff.

158. シューネマン (Bernd Schünemann)

編著 (Buch)

4. Schünemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems, 1984.
論文 (Aufsätze)
33. Amnestie und Grundgesetz. Zur Verfassungswidrigkeit einer Amnestie in der Parteispendenaffäre. ZRP 1984, S. 137 ff.
34. Die Unterlassungsdelikte und die strafrechtliche Verantwortlichkeit für Unterlassungen. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 287 ff.
35. Die Zukunft der Viktimo-Dogmatik: die viktimologische Maxime als umfassendes regulatives Prinzip zur Tatbestandseingrenzung im Strafrecht. Festschr. f. Hans Joachim Faller, 1984, S. 357 ff.
36. Einführung in das strafrechtliche Systemdenken. Schünemann (hrsg.), op. cit., 1984, S. 1 ff.

37. Die Funktion des Schuldprinzips im Präventionsstrafrecht. Schunemann (hrsg.), op. cit., S. 153 ff.
38. Das strafrechtliche Dunkelfeld - Stabilisator der Rechtstreue. Durchsetzung des Rechts, 1984, S. 39 ff.
159. シュワルム (Georg Schwalm)
- 36a. Juristische Aspekte der Euthanasie. Euthanasieprobleme, 1977, S. 37 ff.
160. シュウィント (Hans-Dieter Schwind)
論文 (Aufsätze)
40. Strafvollzug und Bewährungshilfe im Kostenvergleich (1982). BewHi 1984, S. 73 ff.
41. Schwind - Steinhilper, Kann Täterwissen zur Kriminalitätsvorbeugung genutzt werden? Bericht über eine englische Untersuchung und Vorüberlegung zu einer „Kriminaltopographie aus Tätersicht“. Krim 1984, S. 317 ff.
- 161a. ゼールマン
1984年冬学期に, ハンブルク大学第一法学部教授に就任した。
WS 1984 Professor Hamburg I.
論文 (Aufsatz)
12. Der anonyme Zeuge - ein erstrebenswertes Ziel der Gesetzgebung? StrVert 1984, S. 477 ff.
- 161b. ゼッサー (Klaus Sessar)
論文 (Aufsätze)
25. Das Verhältnis von Täter und Opfer in der Strafrechtspflege. ZSchr. f. Evangelische Ethik. 28. Jg., 1984, S. 146 ff.
26. Jugendstrafrechtliche Konsequenzen aus jugendkriminologischer Forschung: Zur Trias von Ubiquität, Nichtregistrierung und Spontanbewährung im Bereich der Jugendkriminalität. M. Walter - G. Koop (hrsg.), Die Einstellung des Strafverfahrens im Jugendrecht Chancen und Risiken eines neuen kriminalpolitischen Weges sowie Erfahrungen und Anregungen aus der Praxis. Kriminalpädagogische Praxis, Heft 5, 1984, S. 26 ff.

163a. ゾンネン (Bernd-Rüdiger Sonnen)

論文 (Aufsätze)

- 10a. Die §§ 45 und 47 JGG. Eine Betrachtung der Anwendungspraxis und der Möglichkeiten. Die jugendrichterlichen Entscheidungen, 1981, S. 177 ff.
11. Der Diebstahl nach § 242 StGB. JB1 1984, S. 569 ff.
12. Der Vermögensschaden beim betrügerischen Handel mit Warenterminoptionen. StrVert 1984, S. 175 ff.
13. Strafgerichtsbarkeit - Unrechtsurteile als Regel oder Ausnahme? Udo Reifner - B.-R. Sonnen (hrsg.), Strafjustiz und Polizei im Dritten Reich, 1984, S. 41 ff.

164. シュベンデル (Günter Spendel)

著書 (Buch)

4. Rechtsbeugung durch Rechtsprechung. Sechs strafrechtliche Studien, 1984.

論文 (Aufsätze)

58. Keine Notwehreinstränkung unter Ehegatten. Zum Urteil des BGH v. 11. 1. 1984 - 2 StR 541/83. JZ 1984, S. 507 ff.
59. Der BGH und das Mordmerkmal „Heimtücke“. Zum Beschluß des BGH v. 2. 8. 1983 - 5 StR 503/83. StrVert 1984, S. 45 ff.

164b. シュテファン (Egon Stephan)

論文 (Aufsatz)

21. Die Rückfallwahrscheinlichkeit bei alkoholauffälligen Kraftfahrern in der Bundesrepublik Deutschland. Die Bewährung in den ersten fünf Jahren nach Wiedererteilung der Fahrerlaubnis. ZSchr. f. Verkehrssicherheit 1984, S. 28 ff.

166. シュトラテンウェルト (Günter Stratenwerth)

論文 (Aufsätze)

- 44a. Faschismus als Krise des Liberalismus? ARSP Beiheft 18, 1983, S. 36 ff.
47. Willensfreiheit - eine staatsnotwendige Fiktion? SchwZStr Bd. 101, 1984, S. 225 ff.
48. Peter Noll - eine Skizze seines wissenschaftlichen Werkes. Gedächtnisschr. f. Peter Noll, 1984, S. 1 ff.

167-1. シュトレング (Franz Streng)

論文 (Aufsätze)

15. „Außerrechtliche“ Determinanten von Strafzumessungsentscheidungen. Ein Ar-

beitsbericht. Deutsche Forschungen zur Kriminalitätentstehung und Kriminalitätskontrolle. Bd. 6, Teilband 2, 1983, S. 1288 ff.

16. Die Jugendstrafe wegen schädlicher Neigung - Ein Beitrag zu den Grundlagen und zum System der Jugendstrafe -. GA 1984, S. 149 ff.
17. Unterlassene Hilfeleistung als Rauschtat ? Zugleich ein Beitrag zum Strafgrund und zur Rechtsnatur des „Vollrauschtatbestands“ (§ 323a StGB). JZ 1984, S. 114 ff.
18. Tatbegriff und Teilrücktritt - Zugleich eine Besprechung zum Urteil des BGH vom 23. 8. 1983 - 5 StR 408/83 -. JZ 1984, S. 652 ff.

167a. テンクホフ (Jörg Tenckhoff)

論文 (Aufsatz)

6. Die Unterschlagung (§ 246 StGB). JuS 1984, S. 775 ff.

170. ティーデマン (Klaus Tiedemann)

論文 (Aufsätze)

78. K. Tiedemann - Gerhard Dannecker, Examensklausur Strafrecht (Fall zu Fragen der Eigentums- und Ehrverletzungsdelikte, des Geheimnisverrats und spezieller Rechtfertigungsprobleme). Das „gestohlene“ Altgold. Jura 1984, S. 655 ff.
79. Karl Peters zum 80. Geburtstag. NJW 1984, 161 f.
80. K. Tiedemann - Ulrich Sieber, Die Verwertung des Wissens von V-Leute im Strafverfahren. Analyse und Konsequenzen der Entscheidung des Großen Senats des BGH. NJW 1984, S. 753 ff.
81. Fraude et autres délits d'affaires commis à l'aide d'ordinateurs électroniques. Rev. d. dr. pén. et d. crim. 1984, p. 611 ff.
82. Generalklausel im Konkursstrafrecht. Konkurs-, Treuhand- und Schiedsgerichtswesen, 1984, S. 539 ff.
83. Die Auslegung des Strafprozeßrechts. Festgabe für Karl Peters, 1984, S. 131 ff.
84. Sanktionen gegen Wirtschaftskriminelle. Politische Kriminalität und Wirtschaftskriminalität, 1984, S. 273 ff.

172. ウルゼンハイマー (Klaus Ulsenheimer)

論文 (Aufsätze)

17. Aus der Praxis des Arztstrafrechts. Medizinrecht 1984, S. 161 ff.
18. Zur Rücknahme des Eröffnungsbeschlusses bei Wegfall des Tatverdachts. NSTZ 1984, S. 440 ff.
19. Die strafrechtliche Bedeutung des Betriebsausgabencharakters der Parteispenden.

Entgegnung auf Schäfer, *wistra* 1983, S. 168. *BB* 1984, S. 227 ff.

172a. フィルモウ (Bernhard Villmow)

論文 (Aufsatz)

11. Opfer und Opferentschädigung: einige statistische Daten und Probleme. *MSchr-Krim* 67. Jg., 1984, S. 73 ff.

173. フォークラー (Theo Vogler)

論文 (Aufsätze)

37. Structures and methods of international and regional cooperation in the field of criminal law. *Rapport général. Revue int. de droit pénal.* vol. 55, 1984, p. 33 ff.
38. Strukturen und Methoden der internationalen und regionalen Zusammenarbeit in der Strafrechtspflege. Generalbericht zum Thema 4 des 13. Internationalen Strafrechtskongresses. *ZStrW* Bd. 96, 1984, S. 531 ff.
39. Rechtsvergleichende Übersicht (über internationale Rechtshilfe). *ZStrW* Bd. 96, 1984, S. 615 ff.
40. Auslieferung und Asylrecht. Dieter Wilke (hrsg.), *Festschrift zum 125jährigen Bestehen der Juristischen Gesellschaft zu Berlin*, 1984, S. 829 ff.

174. フォルク (Klaus Volk)

論文 (Aufsatz)

19. Der Strafschutz für Staatssymbole und die Freiheit der Kunst. *JR* 1984, S. 441 ff.

175. ハイנטツ・ワグナー (Heinz Wagner)

著書 (Buch)

3. Individualistische oder überindividualistische Notwehrbegründung, 1984.

177a. ミヒャエル・ワルター (Michael Walter)

論文 (Aufsatz)

22. Verfahrenseinstellung - ein neuer kriminalpolitischer Weg? - Eine Einführung. M. Walter - G. Koop (hrsg.), *Die Einstellung des Strafverfahrens im Jugendrecht. Chancen und Risiken eines neuen kriminalpolitischen Weges sowie Erfahrungen und Anregungen aus der Praxis. Kriminalpädagogische Praxis*, Heft 5, 1984, S. 8 ff.

180. ウルリッヒ・ウェーバー (Ulrich Weber)

論文 (Aufsätze)

33. Examensklausur Strafrecht. Das Urteil. Jura 1984, S. 367 ff.
34. Konzeption und Grundsätze des Wirtschaftsstrafrechts (einschließlich Verbraucherschutz). Dogmatischer Teil 2: Das Wirtschaftsrecht und die allgemeinen Lehren und Regeln des Strafrechts. ZStrW Bd. 96, 1984, S. 376 ff.
35. Neuere Rechtsentwicklungen: Strafrecht. Neuere Rechtsentwicklungen, 1984, S. 67 ff.

181. ウェルプ (Jürgen Welp)

論文 (Aufsatz)

11. Probleme des Akteneinsichtsrechts. Festgabe f. Karl Peters, 1984, S. 309 ff.

183. ウェッセルス (Johannes Wessels)

論文 (Aufsatz)

8. Probleme der Jagdwilderei und ihrer Abgrenzung zu den Eigentumsdelikten. JA 1984, S. 221 ff.

185a. ヴォルター (Jürgen Wolter)

論文 (Aufsätze)

- 11a. Grundfälle zu „in dubio pro reo“ und Wahlfeststellung. JuS 1984, S. 530 ff., 606 ff.
13. Der »unmittelbare« Zusammenhang zwischen Grunddelikt und schwerer Folge beim erfolgsqualifizierten Delikt. GA 1984, S. 443 ff.
14. Objektive und personale Zurechnung zum Unrecht - Zugleich ein Beitrag zur aberratio ictus und objektiven Strafbarkeitsbedingung. B. Schünemann (hrsg.), Grundfragen des modernen Strafrechtssystems, 1984, S. 103 ff.

187. ツィップ (Heinz Zipf)

論文 (Aufsatz)

- 27a. Überlegungen zum Öffentlichkeitsprinzip im Strafverfahren. Strafrechtliche Probleme der Gegenwart, Bd. 10, 1982, S. 175 ff.